

学習指導要領		都立 東村山西 高校 学カスタンダード
<p>(1) 現代に生きる自己の課題</p>	<p>自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。</p>	<p><青年期の意義と課題></p> <p>青年期における人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>将来に向けた進路選択など、自己を確立する基礎を培う。</p> <p>人間の発達段階を八つに区分し、それぞれの発達段階の標準的な区切り目について確認し、なお、青年期については、前・中・後期の三期に細分化できることも確認し、青年各期の特徴の要点について目を通し、孤独・友情・恋愛・性・コンプレックス・防衛機制・パーソナリティなどの青年期ならではの課題についても、幅広く考察する。</p>
<p>(2) 人間として在り方生き方</p>	<p>自己の生きる課題とのかかわりにおいて、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。</p> <p>ア 人間としての自覚</p> <p>人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。</p>	<p><「倫理」のための歴史基礎></p> <p>歴史の年代表現の手段として、「世紀、紀元前と西暦、古代と中世と近現代」等を確認する。</p> <p><学問の分類と哲学の位置></p> <p>学問は科学と哲学に大別されること及び、哲学の科学に対する位置付け、哲学を科学の片隅に置く位置付け、遡って哲学がすべての学問を指した古代ギリシア時代の位置付け、哲学の三つの見方を確認する。</p> <p><古代ギリシア思想></p> <p>自然哲学者たちからヘレニズム時代の個人主義まで、哲学の誕生と成長の過程を概観する。</p> <p><キリスト教思想></p> <p>ユダヤ教を母体とする系譜、聖書、隣人愛等を理解した上で、何故に愛の宗教と呼ばれるか、考える。</p>

学習指導要領	都立 東村山西 高校 学カスタンダード
<p>イ 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>(3) 現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>ア 現代に生きる人間の倫理</p> <p>人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題とし</p>	<p><イスラム教思想></p> <p>イスラム教の二大分派について知り、ムハンマドの言行や「六信・五行」などの理解を通して、ムスリムの日常生活や基本的な価値観を理解する。</p> <p><仏教思想></p> <p>バラモン教を母体とする系譜、四[三]法印等を理解した上で、諸宗派に共通の特徴を確認する。</p> <p><古代中国思想></p> <p>春秋戦国時代の諸子百家、特に儒家と道家を中心に理解した上で、儒家道家の対照性を確認する。</p> <p><日本の思想・宗教の流れ></p> <p>日本源流思想から、日本古代仏教、鎌倉(新)仏教、近世の儒学・国学・民衆思想、近代の特徴的諸思想までを、順番に要点を押さえ概観する。</p> <p>その際、漢字で表記する用語や人名の、読み書きの習得を重要視する。</p> <p><ルネサンスと宗教改革等></p> <p>中世の神中心主義から近代の人間中心主義へ、ルネサンスの精神は、文学・芸術以外では、宗教や道徳、自然科学などにも影響を与えたことを知る。</p> <p><市民革命期前後の諸思想></p>

学習指導要領	都立 東村山西 高校 学カスタンダード
<p>て考えを深めさせる。</p> <p>イ 現代の諸課題と倫理 生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p>	<p>イギリス経験論、大陸合理論、ドイツ観念論、イギリス功利主義など、諸思想の要点を知る。</p> <p>市民革命へと繋がった社会契約説とフランス啓蒙思想も、世界史に絡めて、理解する。</p> <p><社会主義思想> 資本主義の原理その初期の問題点を踏まえ系譜等を知り、近現代史上の功罪について考える。</p> <p><実存主義思想> 自己疎外の状況下に対し内面的変革を説く系譜等を知り、有神論的と無神論的の二種類を理解する。</p> <p><プラグマティズム思想> 独立した米国が行動の有用性を重要視した系譜等を知り、米国人の思想と国民性の関連を再考する。</p> <p><現代ヒューマニズム思想> 人間性の危機に立ち向かった代表的人々の諸思想を知り、近現代における人道主義の地平拡大を確認する。</p> <p><とりわけ、環境倫理について> 1972年にローマクラブにより人間活動が地球の限界を超える日が近づいている（成長の限界）ことを警告して以来、科学的データが少しずつこれを実証してきている。温暖化ガスの増加による異常気象の増加など近年身にしみて感ずるようになってきた。これらの問題を軽減するために、各国政府、企業、学会がさまざまな努力をしているが、私たち自身がこの事実を学び、行動する（エコピープルになる）ことが最も重要である。エコピープルを目指すために、エコ検定（日商開催）というものの存在を知り、その内容を学び、自分の役割を意識し、行動する基礎を作ることが求められる、そんな契機について考える。</p>